

氏 名 (本 籍)	おか 村 たい と (群 馬 県)
学 位 の 種 類	博 士 (体育科学)
学 位 記 番 号	博 甲 第 2433 号
学位授与年月日	平成 12 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	体育科学研究科
学 位 論 文 題 目	キャンプにおける環境教育・冒険教育プログラムが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果
主 査	筑波大学教授 教育学博士 飯 田 稔
副 査	筑波大学助教授 博士 (体育科学) 中 込 四 郎
副 査	筑波大学教授 博士 (体育科学) 高 橋 健 夫
副 査	筑波大学教授 博士 (教育学) 大 橋 泉

論 文 の 内 容 の 要 旨

(1) 本論文の構成

本文 5 章, 187 頁, 引用文献 22 頁, 参考資料 39 頁から構成されている。

(2) 本論文

本研究は, キャンプ場面を環境教育的要素と冒険教育的要素の融合体であると捉え, 両方の要素を融合した統合型プログラムが自然に対する態度に及ぼす総合的な効果について検証することを目的とした。そこで, キャンプ場面に環境教育プログラムと冒険教育プログラム, 及び統合的プログラムを導入し, 小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果を実証的アプローチに加えて質的データを補完することによって明らかにした。本研究ではこれらの目的を達成するために以下の課題を設定した。

課題 1 : 自然に対する態度尺度を開発する。

課題 2 : キャンプにおける統合的プログラムが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果を明らかにする。

課題 3 : キャンプにおける環境教育プログラムと冒険教育プログラムが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果を比較する。

課題 4 : キャンプにおける統合型プログラムと冒険教育プログラムが小中学生の自然に態度に及ぼす効果を比較する。

課題 1 では, 自然に対する態度を認知的態度と感情的態度の 2 側面から分析するために, 順にリッカート尺度と SD 法による尺度を筆者が独自に作成した。自由記述及び先行研究から項目を抽出した後に, 因子分析法により項目を精選し, 最終的に 35 項目 7 段階からなる「自然に対する認知的態度テスト」と 40 項目 5 段階からなる「自然に対する感情的態度テスト」を開発した。信頼性と妥当性を検討した結果, 高い信頼性と相応の妥当性が支持された。

課題 2, 3, 4 を達成するために, 1994 年, 1998 年, 1999 年の 3 ヶ年に渡り, 公的機関が主催する 7 ~ 14 日間の 4 つの中長期キャンプを実験場面として実証的アプローチによる研究を行った。課題 2 では, 統合型プログラムを導入した 13 泊 14 日のキャンプと統合型プログラムを含まない 10 泊 11 日のキャンプの比較を行った。課題 3 においては, 6 泊 7 日のキャンプにクロス・オーバー実験計画に基づいて環境教育プログラムと冒険教育プログラムを導入し, 両プログラムの比較を行った。課題 4 では, 7 泊 8 日のキャンプに統合型プログラムと冒険教育

プログラムを導入し、両プログラムの比較を行った。これらの実験は、キャンプに参加した小中学生（課題2：実験群1，N＝46，対照群1，N＝80；課題3：実験群2，N＝73；課題4：実験群3，N＝56）とキャンプに参加しなかった小中学生（課題2：統制群1，N＝126；課題3：統制群2，N＝43；課題4：統制群3，N＝69）を被験者として行われた。いずれの実験群に対しても、キャンプ前、後2回の調査に加えて、それぞれのプログラムによる影響を検討するために2回の調査と、キャンプ1ヶ月後のフォローアップテストの計5回調査を行った。得られたデータは、分散分析、共分散分析を用いて統計的処理を行った。

以上の手続きにより課題2，3，4から得られた結果は以下の通りであった。

- 1) 統合型プログラムにより小中学生の自然に対する認知的態度と感情的態度は向上した。
- 2) 統合型プログラムを導入したキャンプに参加した小中学生の自然に対する認知的態度と感情的態度は、統合型プログラムを含まないキャンプに参加した小中学生及びキャンプに参加しない小中学生に比べ、キャンプ後に向上し、キャンプ1ヶ月後まで維持された。
- 3) 環境教育プログラムにより、小中学生の自然に対する認知的態度は、冒険教育プログラムに比べ向上した。
- 4) 環境教育プログラムと冒険教育プログラムを含んだキャンプに参加した小中学生の自然に対する認知的態度と感情的態度は、キャンプに参加しない小中学生に比べ、キャンプ後に向上し、キャンプ1ヶ月後まで維持された。
- 5) 統合型プログラムにより、小中学生の自然に対する認知的態度は、冒険教育プログラムに比べ向上した。
- 6) 冒険教育プログラムにより、小中学生の自然に対する感情的態度は、統合的プログラムに比べ向上した。
- 7) 統合型プログラムと冒険教育プログラムのいずれかに参加した小中学生の自然に対する認知的態度と感情的態度はキャンプ後に向上し、キャンプ1ヶ月後まで維持されたが、プログラムによる差は見られなかった。

以上の結果を総括すると次のことが明らかとなった。キャンプにおける環境教育的要素は主として自然に対する認知的態度に影響を及ぼし、冒険教育的要素は自然に対する感情的態度に影響を及ぼす。そのために、キャンプが自然に対する態度に及ぼす総合的な効果を考えたとき、環境教育的要素と冒険教育的要素の2つの要素が含まれることが望ましい。また、個々のプログラムで考えたとき、これまで独立して考えられていた環境教育プログラムと冒険教育プログラムに対し、環境教育プログラムには冒険教育的要素を、冒険教育プログラムには環境教育的要素を導入した統合的プログラムの必要性が示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

地球環境、とりわけ自然環境の破壊、劣悪化に対する社会的関心が急速に高まり、その方策の一つとして児童・生徒の自然体験の重要性が叫ばれている。野外教育の代表的活動であるキャンプ体験が児童・生徒の自然に対する態度に及ぼす効果に着目した研究は、時宜を得ており、今日的課題の解決に資するものである。

国内外の豊富な関連文献と長年にわたるキャンプの指導経験に基づいて、本研究に適した独自の態度測定尺度の開発に取り組み、信頼性、妥当性について相当の検討を施し、実践現場への応用の可能性を検証した点が高く評価される。

プログラムと自然に対する態度の関連において、環境教育プログラムは主として認知的態度の向上に、冒険教育プログラムは感情的態度の向上に影響を及ぼし、自然に対する総合的態度の向上にはこれらの統合型プログラムが有効であるとの新しい知見を示した所に本研究の意義と研究分野への貢献が認められる。

実験プログラム及び結果の一部については、必ずしも一貫性のあるものではなかったが、キャンプ主催団体の方針や天候等の影響を考慮すれば、field studyの限界として容認できるものである。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。